

平成 30 年度 第 3 回浜田市保健医療福祉協議会 会議録

日 時	平成 31 年 2 月 14 日（木）18：30～20：10
場 所	浜田市役所 4 階 講堂
出席委員	齋藤 寛治、大谷 克雄、齋藤 暁子、石黒 眞吾、木村 豪成、舩附 克己、竹内 俊介、眞邊 玲子、中山 隆、岩田 博子、小笠原 詞子、高橋 富子
欠席委員	吉村 安郎、竹原 茂央、川神 裕司、山口 記由、室崎 富恵（代理出席：白川晶己）、永瀬 英昭、肥塚 由美子、馬場 真由美（代理出席：塚崎育生）
事務局	健康福祉部長 前木 俊昭、医療統括監 阿部 顕治、地域福祉課長 井上 隆嗣、地域医療対策課長 白根 麻美、統括保健師 湯浅 百合恵、健康長寿課長 久保 智子、子育て支援課長 河上 やすえ、保健予防係長 岩崎 久佳、専門技術員 紀 みどり、地域包括ケア推進係長 倉井 宏朗、子ども家庭相談係長 松山 直敬、地域福祉係長 中谷美代恵、主任主事 大田 崇正
会議内容	<p>1 開会（地域福祉課長）</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①各種計画の進捗状況等について ⇒事務局より、資料No.1-1～1-6について各計画の実績、進捗状況などを説明。</p> <p>【委員からの質問・意見】</p> <p>(委員) 資料 1-4（健康増進計画進捗状況）の標準化死亡比について、平成 25 年を中間年とした 5 年平均で、糖尿病で亡くなる壮年期の女性の数値が浜田圏域では島根県の 6 倍。平成 26 年を中間年としたところでも県の 2 倍。あまりにも高いので、医療関係者としては危惧しないといけないと思う。</p> <p>(事務局) 絶対数が少なく、1 人でもおられると影響が大きいので、単年ではなく 5 年平均にしているが、特に糖尿病で亡くなる方では数値が上がる。おそらく平成 23 年がかなり大きな影響があったのではと思っている。浜田市については、糖尿病対策は以前から課題だと感じているし、脳卒中なども含め、生活習慣病の対策が大切だと認識している。</p> <p>(委員) この表に絶対数が何人という数字を入れておくと、1 人増えると大幅に増えるというのが分かるのでは。糖尿病が直接の死因になる方は、そういないと思われる。死亡診断書の書き方とか絶対数の関係であろうから、あまり捉われなくてもいいのではないかと思う。</p> <p>②地域ケア会議の実施状況について ⇒事務局より、資料No.2について、各事業の実績、進捗状況、見直し内容などを説明。</p>

【委員からの質問・意見】

- (委員) 日常生活圏域ごとの地域ケア会議について、浜田が 97 回で 144 回のうちのほとんどが浜田で開催されているが、高齢者の数や割合が高いということになるのか。
- (事務局) 包括支援センターを中心にして回数をカウントしている。浜田を中心として 4 支所あり、5 か所あるが、周辺地域の相談も部分的に本体である浜田で受けているのもあり、受け付けた場所のカウントということ。
- (委員) 他の自治区に住んでいる高齢者が、浜田で相談される。
- (事務局) そういうケースも含んでいるので浜田が多い。

③平成 31 年度新規事業について

⇒事務局より、**資料No.3**について、各事業の概要などを説明。

【委員からの質問・意見】

○産婦健康診査事業について

- (委員) 産後 2 週間の産婦が対象ということで、それ以降は他にあるのか。
- (事務局) 2 週間を目途に受けていただくが、これ以外にも昨年度から始めている産後ケア事業がある。この事業は助産院で母乳の相談や沐浴の指導、お母さんの話を聞いたりなど、半日単位で、最高 4 回まで受けられる。
- (委員) 強制ではなく希望者だけということだが、希望される方は、どちらかというところむしろ安心で、希望がない方の取りこぼしがないような対応は何か考えているのか。
- (事務局) 強制ではないというのは、絶対に 2 週間したら受けていただくものではないという、少し柔らかい表現にしたかったため。できる限り受けていただくよう、出生届を出された時や、母子手帳を取りに来られた時などに、こういった事業があるということを声掛けしていくが、どうしても受けにくい方がおられると思う。ただし、受けた方、受けていない方の情報は医療機関から市へ提供いただき、取りこぼしがないようにしたい。また、別途医療機関から、入院中に不安な要素があるお母さんの情報はいただいているので、そういったものと整合性を持たせながら対応していきたいと思う。

○はまだ健康チャレンジ事業について

- (委員) ポイントは自己申告なのか。確認などは。
- (事務局) 実際の歩数を確認するとなると、アプリの導入などが必要だが、多額の費用がかかるので自己申告とした。

(2) 協議事項

①浜田市自死対策総合計画（案）について

⇒事務局より、**資料No.4 及び 4-1**について説明。

【委員からの質問・意見】

- (委員) 13 ページの「取り組むべき課題」の中で、「ゲートキーパー的な支援者を増やす取り組みを推進する」とあるが、具体的には市民向けにどういう対応をされるのか。
- (事務局) ゲートキーパー研修というのがあり、保健所と一緒に普及啓発等したい。
- (委員) 26 ページの (3) 2 点目、「保護者、学童、生徒向け～」とあるが、通常、「生徒」が後にくると、前は「児童」なのだが、「学童」という言葉を使っているのはなぜか。

(事務局)「児童」に修正する。

(委員) 相談窓口一覧の 46 ページに社会福祉協議会が載っている。各種の相談窓口が書かれていて、最後に社協だけが出ているのは意味が分からない。もし社協として掲載してもらうなら、各支所でも緊急資金の貸付けやフードバンクなどもしているので、42 ページの「あんしん生活相談窓口」の一覧の中に載せていただけるか、検討していただきたい。

(事務局) 引用先の島根県相談機関一覧に相談窓口一覧が出ている。その中から浜田圏域に関係する部分だけを引用して掲載したもの。修正する。

(委員) 自死対策については、以前から保健所の圏域で対策会議をもっていたが、市町村単位で取り組みを進めるのがいいと以前から思っていた。法律が変わり、市町村ごとに計画策定することで、具体的に進めていく上では非常にいいことと思う。

自死対策に色々取り組んできてはいるが、これという決め手がないというのが実情。自死に至る人というのは、他がまったく見えなくなって、ある意味自分で追い込んでしまう。色々な相談窓口や救済の手段があるということの啓発に力を入れるべきではと常日頃感じている。命の大切さもだが、やはり社会にセーフティネットがたくさんできているという部分を一般の方々に幅広く認識していただきたい。幅広く啓発することが大事なので、今日集まりの皆さんにもこういった相談窓口をぜひ伝えていってもらいたい。

※この件について、拍手で承認された。

4 その他

○浜田市子ども・子育てに関する市民実態調査について経過報告

(事務局) 子ども・子育てアンケートを就学前と小学校の児童のいる家庭に送らせていただいた。2月1日が締め切りで、回収率は、就学前の児童の保護者が 80.3%、小学生児童の保護者が 79.1%となっている。これは、保育園、幼稚園、小学校を通じて回収させていただいたのが大きな要因かと思う。

現在、集計作業に入っているが、3月1日の議会福祉環境委員会で速報値を報告し、その後3月7日に専門部会を開催するので、そちらである程度完成したものの、内容を確認していただこうと思っている。

本協議会の委員の皆さんには、製本したものを郵送させていただく。これについては、来年度予定している計画づくりの素案になる。アンケートに対して、計画づくりの参考とさせていただくので、忌憚のない意見をいただきたい。

5 閉会